

アクサ世界株式ファンド

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第5期（決算日 2024年4月16日）

作成対象期間（2023年10月17日～2024年4月16日）

第5期末（2024年4月16日）	
基準価額	12,200円
純資産総額	50百万円
第5期 (2023年10月17日～2024年4月16日)	
騰落率	20.9%
分配金合計	0円

(注) 騰落率は収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

■受益者のみなさまへ

平素は格別のお引き立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「アクサ世界株式ファンド」（以下、「当ファンド」といいます。）は、このたび第5期の決算を行いました。

当ファンドは、投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、日本を含む世界の株式に投資することにより信託財産の成長を目指します。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

引き続き一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

○当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書（全体版）」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記弊社ホームページの「ファンド情報」、「ファンドの各種資料等」から、当ファンドの「運用報告書（全体版）」を閲覧およびダウンロードすることができます。

○「運用報告書（全体版）」は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

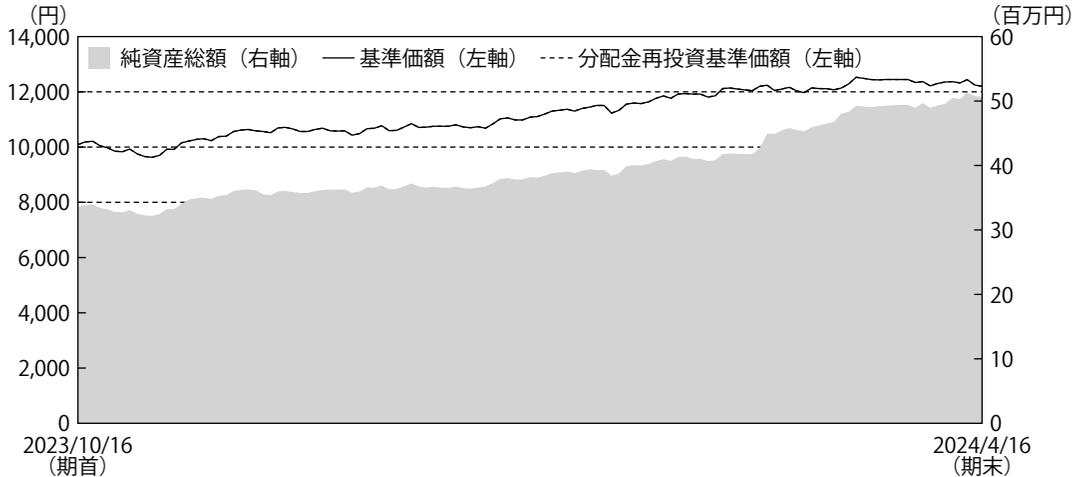
アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
東京都港区白金1-17-3 NBFプラチナタワー14階
<http://www.axa-im.co.jp/>

《当運用報告書の記載内容に関する問い合わせ先》
電話番号：03-5447-3160
受付時間：9：00～17：00（土日祭日を除く）

運用経過

■基準価額等の推移について

(2023年10月17日～2024年4月16日)



期首：10,089円

期末：12,200円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：20.9%（分配金再投資ベース）

■基準価額の主な変動要因

当期は、主として当ファンドが投資するアクサ・ワールド・ファンド・エヴォルヴィング・トレンドズ（Mシェアクラス）が保有している株式の株価が上昇したことがプラスに寄与して、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」および「ポートフォリオについて」をご参照ください。

■ 1万口当たりの費用明細

(2023年10月17日～2024年4月16日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	48円	0.423%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は11,225円です。
(投 信 会 社)	(37)	(0.330)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(9)	(0.082)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
そ の 他 費 用	6	0.050	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(6)	(0.050)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	53	0.474	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れている「アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド」が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

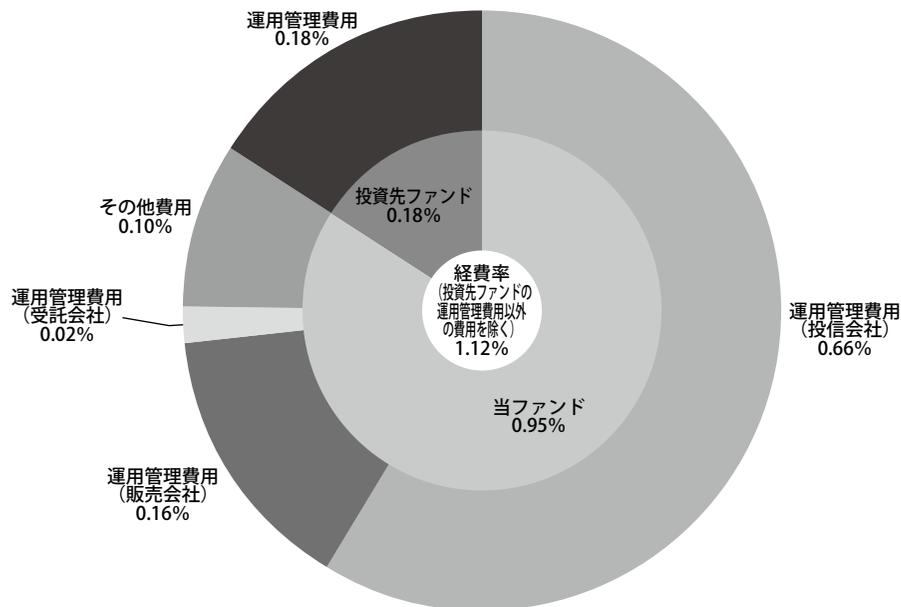
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、ファンドが組み入れている「アクサ・ワールド・ファンド・エヴォルヴィング・トレンドズ（Mシェアクラス）」が支払った費用を含みません。

(参考情報)

○総経費率



※当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.12%です。

経費率 (①+②)	1.12%
①当ファンドの費用の比率	0.95%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.18%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている「アクサ・ワールド・ファンド・エヴォルヴィング・トレنز（Mシェアクラス）」です。

(注5) ①の費用は、「アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド」が支払った費用を含み、「アクサ・ワールド・ファンド・エヴォルヴィング・トレنز（Mシェアクラス）」が支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

(注8) 「アクサ・ワールド・ファンド・エヴォルヴィング・トレنز（Mシェアクラス）」には運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

■最近5年間の基準価額等の推移について

(2021年10月29日～2024年4月16日)



決算日		2021年10月29日 設定日	2022年4月18日 決算日	2023年4月17日 決算日	2024年4月16日 決算日
基準価額	(円)	10,000	9,609	9,439	12,200
期間分配金合計 (税込み)	(円)	—	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	△3.9	△1.8	29.3
純資産総額	(百万円)	5	15	29	50

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 当ファンドの運用方針に対応する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

■投資環境について

当期のグローバル株式市場は、上昇しました。期初より米国と欧州のインフレがピークに達したという兆しを受けて、堅調に推移しました。

期初よりイスラエルとハマスの戦争が勃発し、その紛争が中東全体に広がるのではないかと懸念から市場が混乱し、世界株式は下落しました。10月は金融政策への期待と米国債利回りの上昇に特徴付けられ、株式市場の見通しには逆風となりました。

11月以降は、景気後退懸念から米連邦準備制度理事会（F R B）による利下げ期待へと投資家心理がシフトしたことで市場は上昇しました。F R Bの当局者らは、12月の会合で米国経済のソフトランディングに向かわせる自信が高まっていることを強調しました。米国市場の通年のリターンは「マグニフィセント・セブン」とされる超大型銘柄が主導していましたが、2023年の最終数か月は、より広範な株式市場の参加がみられました。

日経225指数は、魅力的なバリュエーション、企業のガバナンス改革への好意的なセンチメント、外国投資の流れにけん引されて一年間上昇した後、2月に1989年のピークを超えて過去最高値を更新しました。

3月には、より強い経済成長と健全な雇用率への期待、そしてF R Bが2024年に3回の利下げを計画していることが米国市場に好材料を与えました。欧州株は世界的な株価上昇に加わり、3月には最高値を更新しました。Stoxx600指数は、インフレ緩和や金利引き下げ、より強固な世界経済への期待を背景に、欧州企業が米国市場に追隨して上昇し、過去最高値を更新しました。

4月のグローバル株式市場は下落しました。米株式市場は、高金利の長期化観測、まちまちな消費者信頼感、根強いインフレへの懸念が再燃し9月ぶりの厳しい月となりました。

■当該投資信託のポートフォリオについて

○当ファンド

当期を通じて、主要投資対象ファンドである外国投資信託証券「アクサ・ワールド・ファンド・フラムリントン・エヴォルヴィング・トレンドズ（Mシェアクラス）」を高位に、国内籍投資信託「アクサローゼンバーク・日本円マネー・プール・マザー・ファンド」を低位に組入れた運用を行ないました。各投資対象ファンドにおける運用経過は以下のとおりです。

○アクサ・ワールド・ファンド・エヴォルヴィング・トレンドズ（Mシェアクラス）

当期のパフォーマンスは、MSCIオール・カントリー・ワールド指数に代表されるグローバル株式市場全体のパフォーマンスを上回りました。

重点を置いているのは、「高齢化とライフスタイル」、「コネクテッド・コンシューマー」、「自動化」、「クリーンテック」、「移行する社会」という5つの長期的な成長テーマです。いずれも当社が高い確信度を維持しているテーマであり、投資家に魅力的な長期的な資本増加をもたらすと見られます。

当期間中、最も大きくパフォーマンスにプラス寄与したのは、「コネクテッド・コンシューマー」、「自動化」、「エネルギー移行」分野でした。一方で、マイナスに寄与したのは、「高齢化とライフスタイル」分野でした。

「コネクテッド・コンシューマー」分野では、米国のソフトウェア大手MICROSOFT、オンライン販売会社AMAZON.COM、ビジネスアプリケーションおよびクラウドプラットフォーム提供会社SALESFORCE、配車サービス会社UBER TECHNOLOGIESが最も大きく寄与しました。MICROSOFTは、堅調な第3四半期決算を発表しました。Azureの売上高の堅調な伸びは、A I関連サービスの需要拡大の後押しを受けています。A Iの成長加速と最適化への逆風の緩和は、中期的に好材料となるでしょう。SALESFORCEの経営陣とは1月に会合しましたが、需要の安定が売上を支えているというコメントと、C F Oが利益率の拡大に継続的に注力していることは好感材料です。UBER TECHNOLOGIESの第3四半期の業績は好調で、第4四半期の予約件数見通しを上方修正しました。UBERは、成長と収益性に強いモメンタムを見せており、モビリティとデリバリーの両方の加速がみられ、利益率のレバレッジを実現しています。

「自動化」分野では、米国の半導体メーカーNVIDIA、世界最大の半導体製造装置メーカーAPPLIED

MATERIALS、医療ロボットメーカーINTUITIVE SURGICAL、台湾の世界有数の半導体製造ファウンドリーTSMCが特記すべきプラス要因となりました。APPLIED MATERIALSは、市場予想を上回る四半期決算を発表しました。DRAMを中心としたシェア拡大や中国で持続する堅調さが業績を支えました。APPLIED MATERIALSは、高帯域幅メモリ（HBM）の強みと、最先端のファウンドリ/ロジックにおける技術の転換による恩恵を受けています。TSMCは、2024年を通して複数のASICやGPU、エッジAIプロセッサ・プログラムの生産を拡大するなかで、AI半導体の実現において鍵となる企業として好位置につけています。NVIDIAは、広く報道されているGTCカンファレンスを当期中に開催しました。このカンファレンスでは、加速コンピューティングとAIのリーダーとしての同社の評判が強調されました。NVIDIAの新しいBlackwellプラットフォームでは、生成AIコンピューティングの総所有コストとエネルギー消費を従来のものより最大25倍削減することが可能です。INTUITIVE SURGICALは、手術件数の増加傾向を引き続き報告しています。さらに同社は、複数年にわたる新たな成長機会を象徴する次世代ロボット「ダビンチ5」を発表しました。

「高齢化とライフスタイル」分野では、米国の医療機器メーカーDEXCOMやEDWARDS LIFESCIENCES、デンマークの製薬企業NOVO NORDISKが強固なパフォーマンスをみせましたが、日本の光学機器・ガラスメーカーHOYA、米国のアニマルヘルス事業会社ZOETIS、バイオ医薬品会社BIOGENが低調だったことで相殺されました。3月初めに、DEXCOMは初の店頭で購入可能な（OTC）持続血糖モニター（CGM）についてFDAの承認を受けました。OTC薬として承認されたということは、CGMデバイスを手にするのに処方箋が不要になるということです。その結果、この技術がより多くの人々に有意義に開放され、DEXCOMが対応できる市場が大幅に拡大します。EDWARDS LIFESCIENCESは、三尖弁置換システムのEvoqueの早期承認による恩恵を受けました。経営陣は、三尖弁の市場機会は7～10年の時間枠で経カテーテル大動脈弁置換術（TAVR）と同程度の規模になると見ています。

○アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド

高格付サムライ債をポートフォリオの40%程度、高格付国内事業債を40%程度保有することによりベンチマークを上回る運用リターンを目指すと同時に、国債、地方債、機構債を20%程度保有することにより流動性を確保しております。平均残存年限は7.5か月、加重平均格付けはAフラットとなっております。

■ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の基本方針または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

■分配金について

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益の分配を見送らせていただきました。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

		第5期
		2023年10月17日～2024年4月16日
当期分配金		—
	（対基準価額比率）	—%
	当期の収益	—
	当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額		2,200

（注1）「当期の収益」は「費用控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備設立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

（注2）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注3）「当期の収益」および「当期の収益以外」の算出に当たっては、1万口当たりで小数点以下を切捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

■今後の運用方針について

○当ファンド

引き続き、主要投資対象ファンドである外国投資信託証券「アクサ・ワールド・ファンド・フラムリントン・エヴォルヴィング・トレンド（Mシェアクラス）」を高位に、国内籍投資信託「アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド」を低位に組み入れた運用を行なう方針です。各投資対象ファンドにおける今後の運用方針は以下のとおりです。

○アクサ・ワールド・ファンド・エヴォルヴィング・トレンド（Mシェアクラス）

F R Bは、2%のインフレ目標の達成と金融緩和との微妙なバランスを保つ責任を負っています。金融緩和を急ぎすぎるとインフレの抑制が困難になる可能性があり、逆に遅すぎると景気の減速や雇用市場の大幅な悪化が起きかねません。

2024年に入っても世界株式に対する当社グループの強気の見方は変わっていません。再燃してきた「より高くより長く」の金利への懸念や頑固なインフレにもかかわらず、堅調な利益の伸びと金融緩和観測が株式の支援材料となります。当社は、フリーキャッシュフローを力強く創出する優良企業に重点を置きつつ、引き続きポートフォリオ内のバランスを維持しています。

「進化する経済（Evolving Economy）」を支える長期トレンドはしっかりと維持されており、こうした環境の下で増益を達成できる企業の株価が上昇する可能性が高いと考えられます。

産業用ロボティクス企業の堅実な産業活動や好調な受注件数は「自動化」分野の見通しの明るさを強調しており、一方で、サプライチェーンの混乱の継続で自動化ソリューションを求める声は高まるばかりです。「コネクテッド・コンシューマー」分野の企業は、パンデミック以降、デジタル技術の採用の加速で恩恵を受けており、経済がデジタルトランスフォーメーションを着実に進める中で、この傾向は今後も続く予想されます。排出量の大幅削減に向けた世界各国のさらなるコミットメントは、最近のエネルギー価格の変動と相まって、クリーンエネルギーや電力貯蔵、高エネルギー効率ソリューションの必要性を高めており、「エネルギー移行」分野の企業にとって強力な追い風となっています。

人口統計学的観点からみると、世界人口の高齢化は、消費パターンの長期的変化の恩恵を受ける立場にある「高齢化とライフスタイル」分野の企業に事業機会を生み出し続けています。中国では規制圧力と長期化した新型コロナウイルスによるロックダウンが市場のセンチメントを圧迫しましたが、増大する富と金融包摂、都市化、医療へのアクセスなどのトレンドが「社会的繁栄」分野をより広範に後押ししています。

「生物多様性」分野の損失を防止・緩和する緊急の必要性は、ますます厳格化、具体化する世界的規制、長期目標、企業の報告責任を要因とする責任投資の機会を生み出します。当社は、長期的な追い風の恩恵を受ける市場で持続可能な競争優位性を有する事業を展開する質の高い経営チームが、進化する経済を乗り切っていくために最も適しているという見解を保持しています。金利上昇見通しはデュレーションの長い資産を圧迫しますが、堅実に現金を創出する企業を選好しバリュエーションを重視していることが当社のパフォーマンスを下支えするはずで、したがって、本戦略は世界中で確認されている長期的な変化から恩恵を受ける好位置につけています。

○アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド

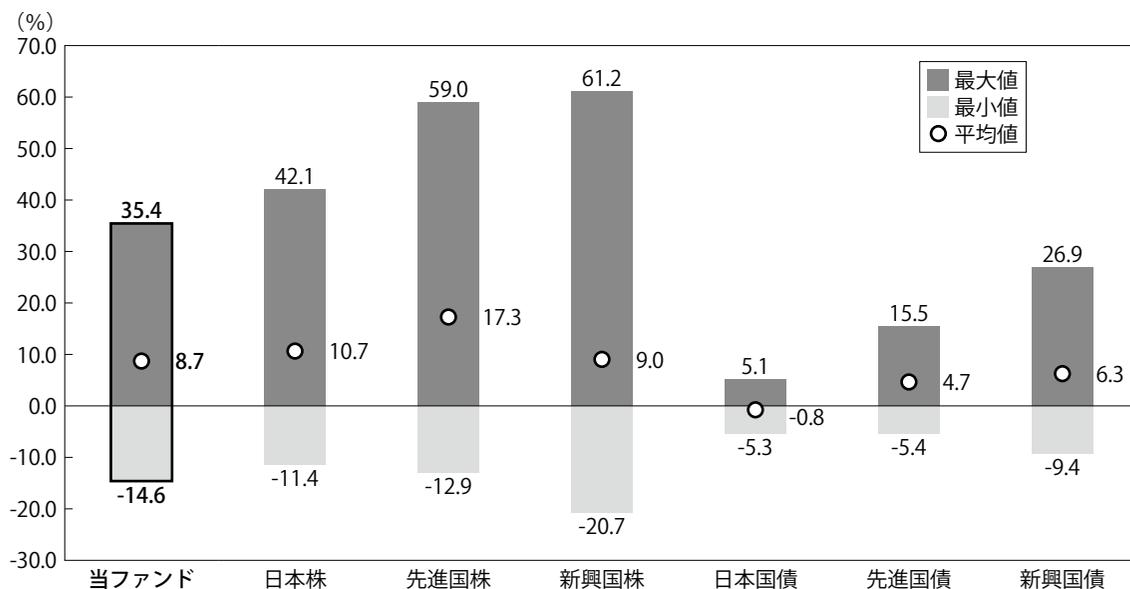
現在の資産構成比率を基本的に維持し、運用利回り向上と流動性確保の両立を目指します。ファンドの平均残存年限については、日本銀行の追加利上げの可能性が高まっているとの見方から、基本的には短めの残存年限を維持しつつ、柔軟に対応していく予定です。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	無期限とします。	
運用方針	主として国内外の投資信託証券（以下「投資対象ファンド」ということがあります。）への投資を通じて、世界の上場株式にアクティブに投資することで、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要運用対象	当ファンド	以下の投資信託証券を主要投資対象とします。
	投資対象ファンド	アクサ・ワールド・ファンド・エヴォルヴィング・トレنز（Mシェアクラス）
		日本を含む世界各国の株式を主要投資対象とします。
		アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド 円建ての公社債を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	主として国内外の投資対象ファンドへの投資を通じて、世界の上場株式にアクティブに投資することで、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。
	投資対象ファンド	アクサ・ワールド・ファンド・エヴォルヴィング・トレنز（Mシェアクラス）
		●主として、世界の上場株式に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。 ●市場動向によっては、非上場株式および債券等に投資を行う場合があります。
		アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド ●本邦通貨表示の公社債等に投資を行い、利息等収入の確保を目指して運用を行います。 ●日本円無担保コールオーバーナイト物レートにより日々運用したときに得られる投資収益を指数化したものをベンチマークとし、これを中・長期的に上回る運用成果を目指します。
組入制限	1 投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。 2 株式への直接投資は、行いません。 3 外貨建資産への直接投資は、原則として行いません。	
分配方針	毎決算時に原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ① 分配対象額の範囲は繰越分を含めた利子、配当等収益と売買益（繰越欠損補填後、評価損益を含む）等の金額とします。 ② 分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないこともあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 ③ 留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

(参考情報)

代表的な資産クラスとの騰落率の比較 (2019年4月～2024年3月)



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	35.4	42.1	59.0	61.2	5.1	15.5	26.9
平均値	8.7	10.7	17.3	9.0	△0.8	4.7	6.3
最小値	△14.6	△11.4	△12.9	△20.7	△5.3	△5.4	△9.4

*上記のグラフは、2019年4月から2024年3月の5年間の各月末における1年騰落率の平均・最大・最小を、代表的な資産クラスについて表示したものです。

*上記の騰落率は2024年3月末から60ヶ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

*当ファンドは2022年10月から2024年3月の各月末における1年騰落率の平均・最大・最小を表示したものです。

○各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ指数 (税引後配当込み、円建て)

新興国株・・・S&P新興国総合指数 (税引後配当込み、円換算)

日本国債・・・ブルームバーグ日本総合指数

先進国債・・・ブルームバーグ・グローバル国債 (日本を除く) トータル・リターン指数 (円建て)

新興国債・・・JPモルガンEMBIグローバル・ディバースファイド指数 (円換算)

(海外の指数は、為替ヘッジをしない投資を想定して、円で表示しています。ドルベースの指数については、委託会社が円換算しております。)

ファンドデータ

■当ファンドの組入資産の内容

組入ファンド等

(組入銘柄数：2銘柄)

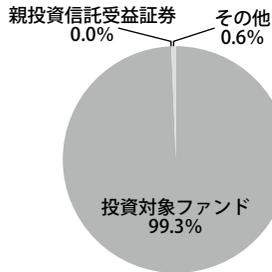
フ ア ン ド 名	第5期末
	2024年4月16日
アクサ・ワールド・ファンド・エヴォルヴィング・トレンドズ (Mシェアクラス)	99.3%
アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド	0.0
その他	0.7

(注1) 比率は純資産総額に対する割合です。

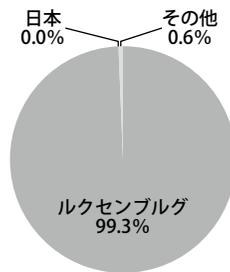
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

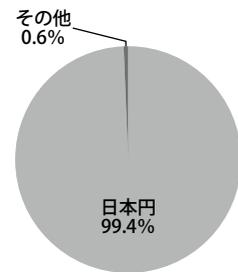
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

■純資産等

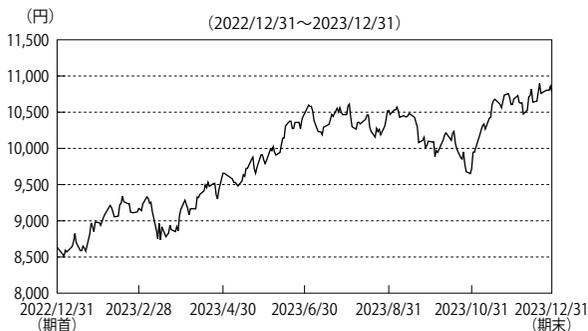
項 目	第5期末
	2024年4月16日
純 資 産 総 額	50,637,245円
受 益 権 総 口 数	41,505,722口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額	12,200円

※当期における追加設定元本額は10,903,142円、解約元本額は2,643,273円です。

■組入上位ファンドの概要

アクサ・ワールド・ファンド・エヴォルヴィング・トレンドズ（Mシェアクラス）

【基準価額の推移】



— 基準価額（左軸）

【1万口当たりの費用明細】

1万口当たりの費用明細の取得が困難なため、表示しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2023年12月31日現在)

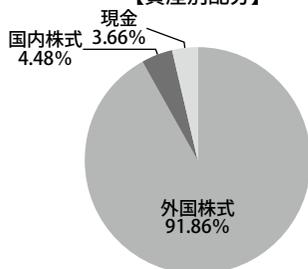
(組入銘柄数：55銘柄)

	銘柄名	通貨	比率
1	Alphabet Inc.	米ドル	4.91%
2	Microsoft Corporation	米ドル	4.09%
3	Amazon.com, Inc.	米ドル	3.24%
4	UnitedHealth Group Incorporated	米ドル	2.74%
5	ServiceNow, Inc.	米ドル	2.65%
6	Apple Inc.	米ドル	2.65%
7	Siemens Aktiengesellschaft	ユーロ	2.48%
8	Novo Nordisk A/S	デンマーククローネ	2.44%
9	Salesforce, Inc.	米ドル	2.44%
10	Visa Inc.	米ドル	2.37%

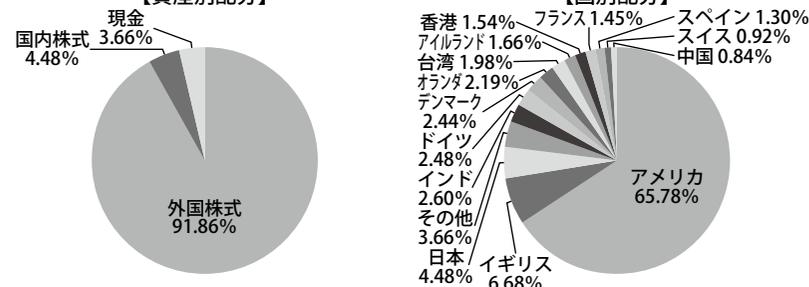
(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

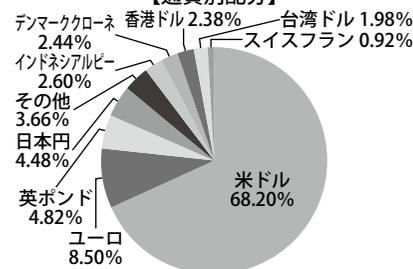
【資産別配分】



【国別配分】



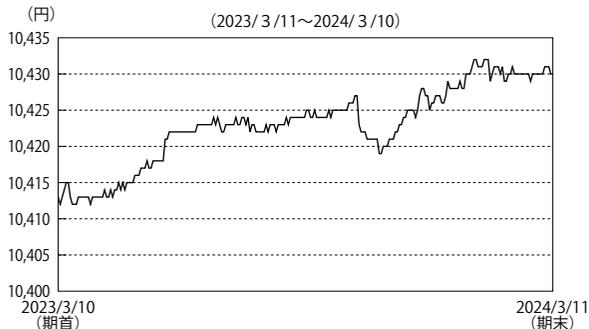
【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド

【基準価額の推移】



— 基準価額 (左軸)

【1万口当たりの費用明細】

(2023年3月11日~2024年3月11日)

	金額	比率
その他費用 (その他)	0円 (0)	0.002% (0.002)
合計	0	0.002

期中の平均基準価額は、10,423円です。

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

【組入上位10銘柄】

(2024年3月11日現在)

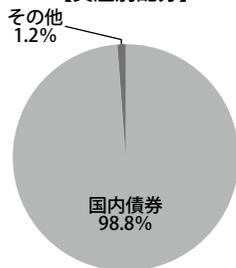
(組入銘柄数：16銘柄)

	銘柄名	通貨	比率
1	442 2年国債	日本円	16.8%
2	10 日本特殊陶業	日本円	7.4%
3	1 新韓銀行	日本円	7.4%
4	12 プリヂストン	日本円	7.4%
5	197 オリックス	日本円	7.4%
6	8 日本電産	日本円	7.4%
7	15 富士フイルムホールデイ	日本円	7.4%
8	1 サンタンデール	日本円	7.4%
9	42 東日本旅客鉄道	日本円	3.8%
10	18 シテイグループ・インク	日本円	3.8%

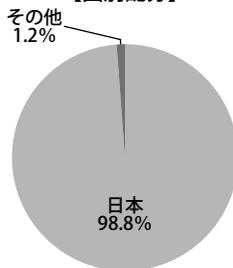
(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

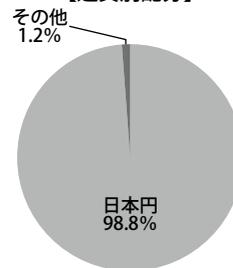
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

●指数に関して

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

- ・東証株価指数（TOPIX）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、同指数に関する知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又はJPX総研のグループ会社（以下「JPX」といいます。）が所有しています。JPXは、同指数の指数値およびそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。JPXは同指数の算出もしくは公表方法の変更、同指数の算出もしくは公表の停止または同指数の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- ・MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が開発した指数で、MSCI Inc. の知的財産であり、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。MSCIでは、掛かるデータに基づく投資による損失に一切責任は負いません。
- ・S & P新興国総合指数（税引き後配当込み）：S & P新興国総合指数（税引後配当込み）は、S & Pダウ・ジョーンズ・インデックスが公表している株価指数で、世界の新興国で構成されています。同指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてS & Pダウ・ジョーンズ・インデックスに帰属します。
- ・ブルームバーグ日本総合指数は、Bloomberg社が公表している指数で、日本の債券で構成される債券指数です。
- ・ブルームバーグ・グローバル国債（日本を除く）トータル・リターン指数は、Bloomberg社が公表している指数で、日本を除く世界主要国の国債で構成される債券指数です。「Bloomberg®」およびブルームバーグ日本総合指数とブルームバーグ・グローバル国債（日本を除く）トータル・リターン指数は、Bloomberg Finance L.P.および、同インデックスの管理者であるBloomberg Index Services Limited（以下「BISL」）をはじめとする関連会社（以下、総称して「ブルームバーグ」）のサービスマークであり、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社（以下、当社）による特定の目的での使用のために使用許諾されています。ブルームバーグは当社とは提携しておらず、また、アクサ世界株式ファンド（以下、当ファンド）を承認、支持、レビュー、推奨するものではありません。ブルームバーグは、当ファンドに関連するいかなるデータもしくは情報の適時性、正確性、または完全性についても保証しません。
- ・JPモルガンEMBIグローバル・ディバーシファイド指数は、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している指数で、新興国の債券で構成される指数です。同指数の著作権およびその他知的財産権はすべてはJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

上記指数の円換算ベースは当社が独自に算出したものを採用しています。